



モニタリングサイト1000
Since 2003

モニタリングサイト 1000 湿原調査

2015 年 2 月 25 日 更新

はじめに

モニタリングサイト 1000 陸水域調査では、2009 年度から「湖沼」と「湿原」の 2 つの生態系において調査を実施しています。

植物は生産者として湿原生態系の基盤を形成し、その変化は湿原に生息する数多くの生物に大きな影響を及ぼします。そこで湿原調査では、サイト毎の植物群落の種構成を把握し、長期的な生物多様性の変化を捉えることを目的に、ライントランセクト調査（湿原に線を引き、その線上の決められた地点に生育する植物種を記録する調査）を行っています。また、植物の生育に重要な温度・地下水位などの物理環境の観測も併せて実施しています。

調査は、これまでサロベツ湿原、釧路湿原、八甲田山湿原、尾瀬ヶ原湿原の 4 サイトで実施してきました。2014 年度は、サロベツ湿原と八甲田山湿原サイトでそれぞれ 3 回目の調査を行いました。



更新履歴

- ・2014 年 10 月 24 日 八甲田山湿原サイトの調査結果を掲載
- ・2015 年 2 月 25 日 サロベツ湿原サイトの調査結果を掲載

八甲田山湿原サイト（青森県）

八甲田山湿原サイトは、豪雪地帯の八甲田山麓にある標高 1040 m の傘松峠に隣接し、緩やかな傾斜に形成された高層湿原です。本サイトでは 6 箇所各 20 m の調査ラインを設定し、それぞれ 5 個の方形区（計 30 方形区）を設置しています。

植生調査は 2014 年 8 月 23 日に行いましたが、悪天候であったため、写真撮影は 9 月 15 日に実施しました。本サイトでは、2009 年と 2011 年の 8 月に植生調査を実施し、今回で 3 回目の調査となりました。

今回の調査では計 35 種が記録され（2009 年は 34 種、2011 年は 32 種）、本サイトにおけるこれまでの調査で確認された種数の合計は 39 種となりました。今回の調査で初めて記録された種はミカヅキグサ、ミツガンワ、ミネカエデの 3 種でした。一方、過去 2 回の調査で記録されていたオゼニガナやミズギクなど 4 種は今回確認されませんでした。



湿原の入り口付近からみた景観
水位観測用のポールがみえる
（2014 年 9 月 15 日 撮影）

多数の黄色い花を穂状につけるオオアキノキリンソウは、2009年の調査では9個の方形区で記録され、2011年の調査では記録されませんでした。今回の調査では9個の方形区で確認されました。また、白く可憐な花をつけるウメバチソウはすべての調査ラインで確認されました。

過去2回の調査時と比べ、湿原の入り口付近でヨシの生育が目立っており、湿原植生に若干の変化が認められました。このような変化の追跡およびその原因の検証のため、今後も注意深くモニタリングしていく必要があります。

【調査者・調査協力者】

佐々木雄大(東京大学)、神山千穂(国際連合大学)



チングルマやワタスゲが優占する方形区
(2014年9月15日 撮影)



多数の黄色い花を穂状につける
オオアキノキリンソウ
(2014年9月15日 撮影)



2cm 程の可憐な白い花をつけるウメバチソウ
(2014年9月15日 撮影)



氷河期の生き残り（氷河遺存種）である
ナガボノシロワレモコウ
(2014年9月15日 撮影)

サロベツ湿原サイト（北海道）

サロベツ湿原サイトは、北海道北部にある天塩川支流のサロベツ川流域に広がる泥炭地湿原に設定されています。サロベツ湿原の高層湿原は、日本各地に現存する湿原のうち、低地に形成されたものの中では日本最大の規模を持ち、その周辺を取り囲むように中間湿原や低層湿原が分布しています。本サイトでは、上サロベツ原野に位置するサロベツ原生花園旧園地付近（ライン 1）と泥炭採掘跡地（ライン 2）近傍の 2 箇所に調査ラインを設け、約 900 m の各ライン沿いに 14～15 個の方形区を設置しています。

今年度は 2014 年 7 月 22 日から 24 日にかけて植生調査を実施しました。本サイトでは、2009 年と 2012 年の 8 月に植生調査を実施しており、今回で 3 回目の調査となりました。

今回の調査では、2012 年と比較して顕著な植生の変化は認められませんでした。乾燥化の指標となるチマキザサの被度がやや増加した方形区が数個確認されました。また、両ラインの計 6 個の方形区で、ゼンテイカにシカの食痕が確認されました。ライン 2 の周辺は空中写真の時系列比較などから植生の退行が顕著で、さらなる退行が懸念されます。そのため、今後とも注意深くモニタリングを続ける必要があります。

【調査者・調査協力者】

富士田裕子・小林春毅（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）、イ・アヨン（北海道大学大学院農学院）

写真撮影：富士田裕子



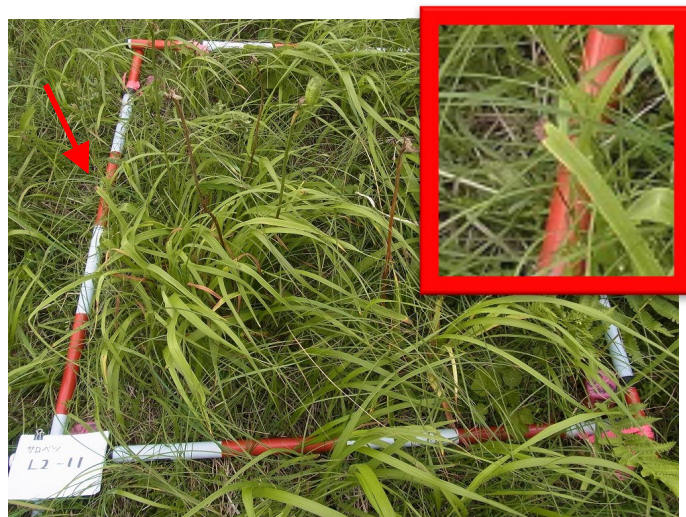
紫色の花をつけるタチギボウシ



ライン 1 の始点から終点方向を望む
チマキザサが優占する



ライン 1 の終点付近の景観
ミズゴケがマット状に一面を覆い、その上に生育するタチギボウシやホロムイスゲの葉が目立つ



ゼンテイカにシカの食痕が認められる方形区

参考情報

- ・ [平成 25（2013）年度モニタリングサイト 1000 陸水域 湿原調査 速報](#)
- ・ [平成 25（2013）年度モニタリングサイト 1000 陸水域 調査報告書](#)
- ・ [モニタリングサイト 1000 陸水域調査 2009-2013 年度とりまとめ報告書](#)

